

読んでもらいたい！おススメ本特集

正志のつぶやき②4

2025 年
6 月 30 日号

おススメの本を
紹介します☆

今回はこれまでの「正志のつぶやき」で掲載していましたが、「ほんの少し：本紹介」のコーナーの、おススメの本紹介特集を組んでみました☆気になる本があったら、中馬正志まで声掛けてください☆



一 本 目

教科書では絶対教えない

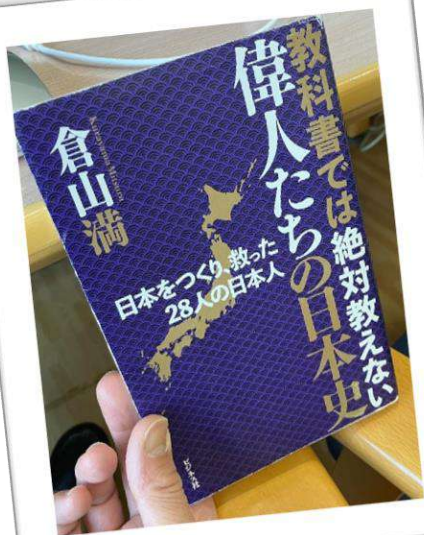
偉人たちの日本史

著者・倉山 満

▼どんな歴史人物にも偉業を遂げている!!

仁徳天皇から始まり昭和天皇に終わる、日本を作り救った28人の偉人の話です。

面白かったのは、やっぱり織田信長 豊臣秀吉 徳川家康。人物の考察がしつくりきて共感できました。さらに良かったのは、源頼朝と北条泰時。頼朝って、悪役風に描かれることが多い印象ですが、当たり前だけ偉業を成し遂げてるんですね。北条泰時は『鎌倉殿の13人』で坂口健太郎さんが演じて良かったなーと思っていました。完璧すぎて主役になりにくい」と評されるほどちゃんとした人だったそうなのもつと言いたことがあったらうなうなという感じがしましたが、この量で十分お腹いっぱい。またゆっくり読み直したい！



歴史上偉人たちの素顔を知れるかも☆

二 本 目

ペコロスの

母に会いに行く

作者・岡野 雄一



笑えて、温かくて、どこか切ないコミックエッセイ...

▼笑いと感動のコミックエッセイ☆

認知症に関わる方は、絶対に読んで欲しい！

40歳で故郷長崎にUターンしたハゲチャビンの漫画家(62歳)が、親の老いを見つめてきた日々の、「笑えて」「温かくて」「どこか切ない」家族の物語をイラストと一緒に読み込む、コミックエッセイです☆「忘れること、ボケることは、悪いことじゃないんだ。母を見てそう思った...」と作者の前向きな考え。

認知症って何だろう？医学的なことはそれなりに分かっているつもりですが、自分が経験できないだけに(経験するかもしれないけど、どんな感じが伝えることができない)、本当に適切な関わり方ができているかは分からない。どうしても、医学的なことを言い出すと難しくなっちゃうんですけど、読めば泣きます。

三 本 目

日本のいちばん長い日

▼胃癌末期の紳士(85歳)との診察室での会話 正志(以下 正)「自宅でもう過ごされているのですか？」

患者(以下 患)「本を読んでいます」：普通ならここで会話は終わるのですが、末期癌の方が読もうと思う本に興味があり、正「どんな本をお読みになるのですか？」ときいてみました。患「半藤一利さんの『日本のいちばん長い日』を。あの時、そんなことが起こっていたのか」と驚きながら読んでいます」その時点で半藤一利さんのことは知らなかったのも、早速購入。

1945年8月15日終戦に至るまでの24時間を描いた作品です。85歳の紳士には、現代の学問を学んだ我々とは異なり、自分から求めない限り戦争に関わる真実を知る機会がなかったのでしょうか。

その後の診察で、患「自身が体験したことに関して、当時では絶対に知ることのできない真実を知ることが、この上ないおもしろさがあります」と仰っていました。



👉 病院の書庫にあります！